



ID: 1350

科目名	日本の産業と企業【26年度生用】			コード			
英語表記	Japanese Industries and Enterprises						
担当教員名	佐々木 嘉治			年度	平成26年度		
基準年次	1年次	開講期	前期		単位数		
授業形態	講義	授業形式		履修形態	選択		
授業概要							
戦後日本の高度成長は、円安の時代に主に技術力に優れた輸出産業がもたらしたものが、近年、その多くが超円高やアジア勢の厳しい攻勢にさらされ苦戦してきた。だが今、国のアベノミクス政策による円安と長年の経営努力が相まって、業績を回復・伸張する企業が増えている。好不況にもまれ続けてきた日本の産業・企業の盛衰の歴史と果敢な挑戦の現状を個別に分析、激化する国際競争に打ち勝つための条件を考える。							
到達目標							
新聞・テレビの経済記事・ニュースがある程度理解でき、また関心を持てるよう指導したい							
授業計画							
第1回	何を学ぶか。産業・企業とは。授業の注意事項など						
第2回	I 日本経済の戦後史と産業・企業 (1) 高度成長からバブル経済の崩壊						
第3回	(2) 「失われた20年」・円高デフレ・大震災、三重苦の克服へ						
第4回	II 主要産業・企業の歩みと現況 (1) 自動車業界とトヨタ、ホンダ、日産						
第5回	(2) 総合電機業界と日立、パナソニック、ソニー						
第6回	(3) 通信業界とNTT、KDDI、ソフトバンク						
第7回	(4) 鉄鋼業界と新日鉄住金、JFE						
第8回	(5) 化粧品・トイレタリー業界と花王、資生堂						
第9回	(6) ビール・飲料業界と麒麟、アサヒ、サントリー						
第10回	(7) 新聞・テレビ業界と読売、朝日、毎日・TBS、産経・フジ						
第11回	(8) 映画・アニメ業界と東宝、松竹、東映アニメーション						
第12回	(9) スーパー・コンビニ業界とセブン&アイ、イオン						
第13回	(10) 銀行業界と三菱東京UFJ、三井住友、みずほ						
第14回	III グローバル競争に打ち勝つために (1) “もの作り”日本の復活を！						
第15回	(2) 国際競争力をどう強化する？						
評価方法と基準			評価項目と割合(%)				
授業態度・出席率と期末試験の成績は4対6の割合で評価する。試験を除き5回以上の欠席者には原則として単位を与えない。			出席	授業態度	レポート	期末試験	その他
				40%		60%	
授業外学習			テキスト、教材				
毎回配付する翌週分のレジュメはA3一枚なので、その週のうちに目を通し授業に備え、授業中は積極的に質問を行うこと。			レジュメA3一枚に加え、ニュース・番組などのビデオや新聞のコピーなど最新情報・データなどを活用しビジュアルに授業を進める。				
参考書			受講生へのメッセージ				
授業中に適宜紹介する。			言うまでもなく“社会に出る”ことは“働く”ことであり、“働く場”は多くの場合、“産業・企業”であることをよく認識した上で受講してほしい。				
キーワード							
アベノミクス、円高・円安、デフレ、新興国、国際競争力							